

次期総合ディレクターの候補について

1 候補者

中村 政人（東京藝術大学美術学部絵画科教授）

2 候補者とする理由

- ・ 中村氏は、東京藝術大学教授として教育・研究に携わるとともに、東京ビエンナーレをはじめ国内各地の芸術祭やアートプロジェクトの企画・運営に携わるなど、文化芸術分野において豊富な知識と実績を有している。また、芸術祭のテーマ・コンセプトの構築、芸術祭全体の統括、地域団体や企業、教育機関、行政等との連携・協働、情報発信までを一体的にマネジメントしてきた実績を有している。
- ・ 千葉国際芸術祭 2025 では、総合ディレクターとして芸術祭のテーマ・コンセプトを構築し、芸術祭全体を統括するとともに、市民、地域団体、企業、教育機関、ボランティア等との連携・協働のもと、市内各所を会場として多彩な文化芸術プログラムを展開した。特に、これまで作品の創作や発表の場とはしてこなかった商業施設や公共空間など、文化施設以外の場も広く活用し、市内の人材や地域資源を活かしたプロジェクトを推進するとともに、障害のある方や子どもを含む幅広い市民の参加機会を創出し、海外アーティストの参加も得ながら交流やネットワークの形成を促進するなど、文化芸術を通じて日常の中にある地域の魅力や価値を市民が再認識する機会を創出し、本市の文化芸術の振興に成果を挙げたことが認められる。
- ・ 千葉国際芸術祭 2025 を実施する中で見られた広報の充実、人材育成、参加機会のさらなる拡大などの課題について、中村氏は総合ディレクターとして芸術祭全体を統括する中で本市の特性や地域課題への理解も深めてきたところであり、それらを含めた経験や知見を今後の芸術祭運営に活かすことができるものとする。
- ・ 以上のことから、中村氏は、文化芸術に関する豊富な知識と実績を有するとともに、千葉国際芸術祭 2025 においてテーマ・コンセプトの構築、芸術祭全体の統括、地域団体や企業、教育機関等との連携・協働による事業推進を担った実績を有しており、これらの経験や知見を活かし、成果を継承するとともに課題の改善を図りながら次期芸術祭をさらに充実・発展させることができると認められることから、次期総合ディレクター候補者とするものである。
- ・ その知識、経験及び実績は、千葉市文化芸術振興計画の理念（文化芸術による『人づくり』『まちづくり』『未来づくり』）の実現及び千葉市芸術祭基本構想の目的（「新たな文化の創造と魅力の発信」「地域への関心や関わりの醸成」「多様な主体の尊重と繋がり創出」）の達成に寄与することが期待できる。